

石灰硫黄合剤の散布 は気をつけて!!

日本では、果樹などの殺虫・殺菌のため、春先に石灰硫黄合剤が使用されています。

この農薬はアルカリであるため、皮膚を深く侵したり、眼に障害をもたらすことがあり、重症になると、長期の入院と手術が必要な場合があります。

重症になる事例は、

- ① 防水着を忘れたのに、そのまま散布した。
- ② 体が薬液に濡れたのに、そのまま散布を続けた。



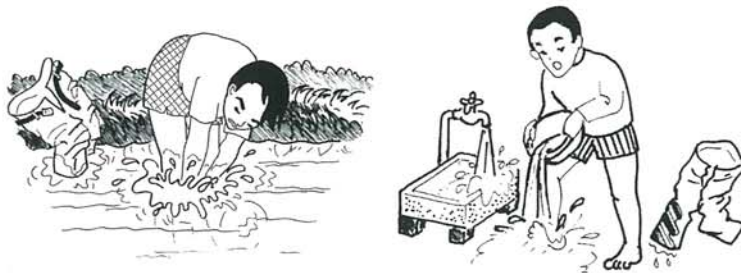
ということが原因である場合が多いです。 重症例(堀内信之 2002)

石灰硫黄合剤は、濡れた時には痛みがありません。それでいて、30分後に洗っても手遅れになります。すぐに、水で洗いましょう。



石灰硫黄合剤の安全な防除のポイント

シャツ、ズボンなどが薬液で濡れたら、
すぐに脱いで、体を水で洗う。
(濡れたまま作業を続けると重症になる。)

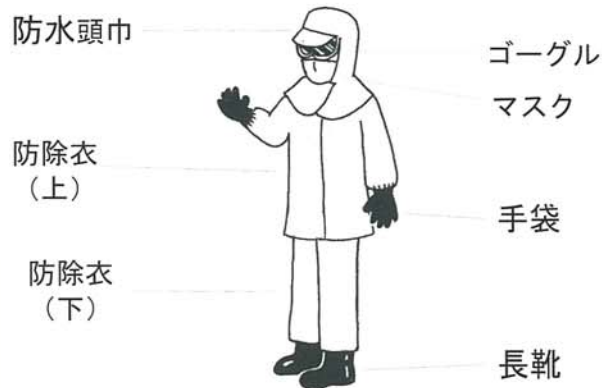


① 果樹園に着いたら、防水着がない。
「取りに帰るのは、面倒だから、散布しちゃえ」は

ダメ!!



② 防護具をしっかり着用



③ 風上から散布



④ 散布が終われば、
手、顔を洗い、うがいをする。



⑤ 家に着いたら、
シャワー、
風呂を使い、



このパンフレットは、日本農村医学会・農薬中毒部会が作成しました。
お問い合わせは、佐久総合病院・健康管理部 永美(カミ)までお願いします。
〒384-0301 長野県佐久市臼田197 電話：0267-82-2677